



発行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市
坂部 2151 番地 2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
<http://www.yamabatogakuen.jp/>

機関誌代は無料です。

人は変わり、世は移れど

(一)

この七月、敬愛するインド人の友、ブラザー・デイビッド・ロバーツと久しぶりに交流する機会がありました。

彼(当時の呼名はデイビッドさん)と最初に出会ったのは、国際障碍者年に当る「一九八一年」だったと思います。国際交流を促す福祉団体からの紹介でしたが、正確には、そこに勤務していた私の友人・飯島蘭子さんが私たちの所(「やまばとホーム」と「やまばと授産所」)を名指しして、彼を送ってきたのです。

「やまばとホーム」とは、長沢巖(法人の前理事長)が私と結婚した時始めた「障害を持つ人とともに暮らす家」で、当時は、巖の



姉・みぎわさんたち障碍をもつ人五名と、他に、巖の母、アシスタントの人たちなど、計十二名位が一緒に暮らしていました。

一方、「やまばと授産所」は同じ敷地内にあった無認可の小規模作業所(県からの補助はあり)で、ホームの住人たちや、地域の障碍を持つ人々がここで働いていまし

た。職員が数名いて、私もその一人。パン作りや木工や手工芸、認可施設(やまばと学園と成人寮)の洗濯業務などをしていました。

記憶がおぼろげなのですが、デイビッドさんは、約一週間ホームに滞在し、昼間は主として小規模作業所で実習。ホームで暮らす愛子さんに付き添って身辺介助をしたり散歩したり、授産所ではご利用者の初子さんたちからパン作りを習ったりし、無口な方でしたが、誰からも好感を抱かれていました。当時彼はまだ大学生で、まもなく卒業という時期だったと思います。私が卒業後のことについて質問すると、静かに「マザーテレサの働きを助けるため、献身したい」と答えたので、あまりにも予想外の返事に私は仰天したのでした。

この青年は、日本の福祉を知るため軽い気持ちで当地へ来られたのだらう位に思っていました。が、実は、「生涯独身で人々に仕える修道士の道」を歩む決意をしていると分かり、稀有の人だなあと畏敬の念を抱かされたのでした。

彼はその後、言葉通り、マザー

テレサの「神の愛の宣教会」に入り、修道士ブラザーロバーツとして歩み始めました。

一九九〇年代にインドを訪問した飯島蘭子さんから、こんな話を聞いたことがあります。

「インドを訪れた人たちと共に、ブラザーロバーツをねぎらおうと彼を食事に招いたのだけれど、レストランのボーイは、『その衣服では入場禁止です』と言って、ブラザーを追いつけたのよ。彼は気にしないでくださいと言ったけれど、とても申し訳なかった。」

貧しい人々の友となり身なりも粗末になった彼は、その後もきつと同様の体験を幾度も味わったのではないのでしょうか。

困難もあつたことと思いますが、しかし彼は人の評価ではなく、見えざる神様の恵みを受けて、また、信頼できるマザーテレサや上司のブラザーアンドリユー、そして仲間のブラザーたちの祈りと励ましの中で成長していかれました。

その後私自身の身にも予期せぬことが起きました。夫が重度心身障碍者になりその介護に追われる

ようになったこと。それだけでなく社会福祉法人の責任者になり、夫の介護と両立させるため多忙を極めるようになったなどです。

そのような状況の中で、ブラザーロバーツと文通することも少なくなりましたが、忘れることはなく、祈りの中で覚えていました。

そして確か二〇〇〇年頃、再来日。当地にも来られたので職員たちと親睦のときを持ったり、静岡市の「ラルシユかなの家」にお連れしたりしました。かつてより非常にたくましくなった印象でした。

その後、「神の愛の宣教会」の上長ブラザーアンドリユーが召され(二人目の後継者も召された後)、ブラザーロバーツは三人目の責任者になり、インド全土にある同会の活動(特に障害者への支援)のため、各施設を巡回していることを、彼からの便りで知りましたが、それが最後の近況報告となりました。お互いに多忙だったことや、こちらを意識的に連絡に努めることがなかったためです。

(二)

状況不明のまま、再び二十年近

い歳月が流れました。それが、全く新しい展開を見せたのは、つい先日、七月八日の朝でした。

本部の職員・石黒さんが電話に応答する声が、なぜか強く理事長室にいる私にも聞こえてきました。「阿川さんですか？阿川さんは今は退職して、ここにはいません」

「阿川さんの電話番号ですか？わかりません」。それを聞いて、思わず私は部屋を出て、「阿川さんの電話番号なら、知ってる！」と大声で告げ石黒さんに近寄りました。彼は困惑顔で受話器を外し、「外国の人のようです」と言います。

私が交替して「もしもし」と話しかけると、「もしもし、私は、ブラザー・デイビッド・ロバーツです」と言うではありませんか！「私、長沢道子よ！」と、こちらも興奮して応え、二人とも予期せぬ突然の再会？を、喜び合ったのでした。

彼は私が法人本部で働いていることを知らず、やまばとホームの電話番号も知らなかったもので、親しかった阿川さん宛て電話してきただけで、もし、石黒さんの声を聞き流していたら、今回の出

会いはなかったでしょう。何か見えない力に押されて電話口に出たような気がして不思議に思います。

ブラザーロバーツは、マザーテレサが始めた山谷での活動を支えるため来日したとのこと。わたしたちのことを忘れず、やまばと学園のためにも祈っていてくれたことが分かりました。

ぜひお会いしましょうということで日程調整しましたが、お互いのスケジュールが全く合わず、今回は断念。電話とメールによる写真交換や報告だけになりました。

それによると、ブラザーロバーツは十二名の知的障害の人たちとカルカッタで共同生活しながら、インド全土にある「神の愛の宣教会」の活動拠点(約四〇位)を巡回し人々を励ましていることや、行政への書類提出等、管理的業務もしていることが分かりました。

ブラザーたちの国籍はインドや韓国やアフリカで、かつてよりも志願者は少なくなっているとのこと。競争や効率を求める現代社会の中で、孤立し不安や絶望に陥っている人、声なき声で助けを求め

ている人も多いため、その友になる人が今まで以上に必要なのだと書いていました。このような働きのために力を尽くす人が増えるよう祈りたいと思ったことです。

今回は、阿川さんや飯島さんとも連絡がとれないまま、ブラザーロバーツが帰国する日(七月十六日)を迎え、やや残念な気もしましたが、その日、私に与えられた聖句は、「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいる」(マタイ28:20)でした。どの地にいても、何があっても、神さまがともに歩んでくださり、求めれば、必要な助けを与えてくださる。ブラザーロバーツも、阿川さんも、飯島さんも、神に守られて、感謝と平安のうちに歩むに違いないと思ったのでした。神に用いられる日々でありますよう、再会のときも与えられますよう祈っています

〈理事長〉長沢道子



マック先生と、 先生がまかれた種「タイムの会」について

三 浦 賀 世

マック先生とは、半世紀も前に榛原郡の吉田町に住んでおられたカナダ人の宣教師アニーメイマクララン先生のことである。私をはじめてこの名前をお聞きしたのは、当時下宿していた赤堀齒科医院の大奥様からである。当時私は新設三年目の吉田高校へ赴任したばかりの新採。大学を卒業するまで関西の実家を離れたこともなく、

富士山を見たいというやや不純な動機で採用試験を受けて運良く受かったので、校医であった赤堀齒科医院の診療所の二階へ住まわせていただくことになったのだ。校医のご好意でと、不謹慎なダジャレを飛ばしながら置いて頂いた歯科医院の若先生のお母様が、日本キリスト教団榛原教会に通う熱心な信者だったのは幸いだった。「農繁期にはマック先生が率先して託児所を開設して、忙しい親に代わって子どもを預かってお世話をしたのよ」とか、「マック先生は野菜などの買い物をするときは、みんなが買いたがらない、しなびたりキズのある売れ残りを買っておられたよ」等々のエピソードをいろいろと聞くことができた。また英語

を勉強したい人々には英語でのバイブルクラスも開いておられたようである。長澤巖先生(やまばと学園創設者)はマック先生と共に教会で働かれたので、バイブルクラスも担当されたのではないだろうか。とにかく、マック先生の足跡は先生の帰国後もここかしこに残り、地元では英語に対する親和性かなり高かった。吉田高校には、当時全国で十二校しかなかった英語科が1971年の開校当初から設置されており、アメリカの姉妹校からは毎年夏休みに約十名の生徒が来校し、三月には吉田高校から姉妹校に同じように十名派遣していた。滞在中はそれぞれの学校の生徒のお宅にホームステイさせて頂いたが、人気の高いプログラムで、いつも留学希望者が参加枠を超えるので、選考試験を実施し、倍率も高かったと記憶している。吉田高校生はほぼ全員親が費用を負担していたが、姉妹校から来る生徒の中には必死にアルバイトをしてお金を貯めて費用を捻出してきた生徒もいた。日系アメリカ人の生徒もいて、「シャッポ」とか「かくし(ポケット)」のような

古めかしい日本語を使うので、帽子とかポケットとか訂正すると「僕のおじいちゃん日本人だから、おじいちゃんの教えた日本語が間違っているはずがない」と反論された事もあった。言葉は生き物だと実感した次第である。マック先生の蒔かれた種の一つがこうした地元での英語への高い関心と親和性。具体的に言うとうと吉田高校英語科であったり、今も細々と続く「タイムを読む会」だと思ふ。

「タイムを読む会」、通称、「タイムの会」は、週一回、土曜日の午後四時から五時まで、アメリカの雑誌「タイム」の記事を読んで、輪番で一人一段落ずつ訳し、その際に出た疑問点を、五時から六時まで来て我々の疑問に答えてくれるアメリカ人講師に確認して皆で議論する会なのだが、大半は雑談で終わることが多い気楽な集まりである。メンバーも、来るものは拒まず去る者は追わずなので、常時出席するのは会場を提供して下さっている島田第四小学校東門前の島田カウンスリング協会という看板のあるお宅の池谷雅宏先生と、あとは六〇代以上の女性数名である。かつては中高の英語教師や英語が好きという人が多かったが、今の現役の先生方は忙しいのと、積極的に誘いかけもしない我々の怠慢ゆえに現役教師は皆無。その

もそもそんな会があることもご存知ない方が大半ではないかと思う。タイムの会は半世紀近く前に、当時の島田市長だった森昌也氏の提唱で始まったと聞いている。当時は活発に議論が交わされ、座長であった森昌也氏の含蓄のあるコメントや当時の英国人講師による短いビデオ紹介や解説等も行われていたが、最近はタイムの記事を読むことに特化し、お互いに無理のないところで細々と続けている。ここまで読んで興味を持ち「ちよつと頭の体操に」とか「ボケ防止に」と思つて覗いてみる気になった方はいつでも誰でも大歓迎である。教材は無料でコピーして頂けるので、会費は、米国人講師への謝礼として一ヶ月五千円(九月から六千円に値上げ予定)である。ちなみに今読んでいる記事はノルウェーで建設中の巨大なデータセンターについて。九月からは「The View [The words that made America]」の予定である。

目まぐるしく変動する現代、又、フェイク混じりの情報も多い現代、多少なりとも世界の動きをじっくり考える機会があっても良いのではないだろうか。

二〇二六年度新年度研修を終えて

ケアセンターマカレット

田澤 岳大

六月二十日(土)、雨の降る中、坂部区民センターにて、「二〇二六年度新年度研修」を行いました。川崎牧師の挨拶から始まり、三つの活動の発表など、内容は盛りだくさんでした。午前の話では、「ともに生きる」ということの深い意味について改めて考えさせられました。

特に心に残ったのは、川崎牧師による「福祉とは孤独に寄り添うわざ」という言葉と「三つよりの糸」の教えであります。人は誰も生きていく限りどこかで倒れる弱い存在であるが、それを否定せず認め合い、助け起こす者がいるからこそが人間の本当の社会なのだと思えました。また、支援する側が上から目線になるのではなく、相手の尊厳を守り、同じ目線で共に歩む姿勢の大切さを田口牧師の言葉からも再確認させられました。

3人の牧師(川崎、田口、姜)の皆様



やまばと、長

澤理事長が紹介した元職員のKさんのエピソードには強い感銘を受けました。見返りや自らの利益を一切求めることなく、身寄りのない一人の女性の幸せのために遠方から何度も足を運んだその行動は、まさに「ともに生きる」という理念を日々の生活の中で具体化した尊い姿であると感じました。

午後の始まりは、未来計画の発表からスタートしました。どのような事を法人全体でしているのか、また法人の今後についてどのように考えているかを報告し、全体で共有しました。その後はEPA生技能実習生、新人職員による歌と踊りの発表でした。初々しさや日本、今後の介護分野のあり方を感じました。グループワークでは「地域に貢献出来る事・研修で心に残った事」について話し合いました。グループで話し合う事で、年齢や職種は違いますが、やまばと学園の一員であることも認識できたと思います。盛り沢山の内容でしたが、一つ一つは法人の理念である「ともに生きる」に繋がっているのだと感じます。来年度はどのような研修になるのか楽しみです。

(施設長)

カフェこむぎでの接客

ワークセンターなのはな

松浦 直江



「地域交流・地域支え合い活動」の一環であるカフェこむぎでの接客が始まりました。私達の施設は数年前からこの事業

にボランティアとして参加させていたのですが、今年度からは就労の場(B型事業所)としての参加です。普段の受託作業とは異なり、お客様と直接関わる経験が出来ることは、ご利用者にとっても、喜びと自信に繋がるだろうと考えてみました。

参加が決まってから施設内での練習を重ね、本番を迎えました。ご利用者は最初はガチガチでしたが、お客様が来店されると、お冷、お手拭き、メニュー、オーダーの受けと次々と動き始めました。品物が完成するとお客様のテーブル

に運びます。「こむぎづくり」の一言が言えました。お客様からも「ありがとう」の言葉をかけていただき、ご利用者にも笑顔が見られました。次は食器の片づけです。初めてコップを洗う方も居て、手順をおしえてもらいながら、一つ一つの作業に真剣に取り組み姿は素晴らしく、とても印象的でした。これらの経験は、ご家庭での生活にも変化をもたらしているようです。家での挨拶の声が大きくなったことや、自分から進んで食器を洗う姿が頼もしく見えるなど、喜びの声が寄せられています。

楽しく仕事をする中で、出来る仕事の幅が広がり、働くことの励みになったり、自立への良い機会が得られたら良いと思います。始まったばかりなので、まだ緊張で表情も硬く、声も小さいかもしれませんが、自然な笑顔で接客できるように支援していきたいと思っています。そして、地域の皆様、関わってくださる全ての皆様笑顔が溢れますように。

(事務員兼職業指導員)

一般就労に向けて

カサプランカ 澤渡 繁



ワークセン
ターカサプラ
ンカ(以下カ
サプランカ)
は就労継続支
援A型(以下

A型)の事業所です。A型事業所は、ご利用者と法人(事業所)が雇用契約を結び、生産活動(仕事)の場を提供しつつ、就労に必要な知識や能力を高める支援を行います。日々の仕事を行いながら、ご利用者が自分のペースで一般就労を目指しています。

コロナ禍以降2026年3月までの期間にカサプランカから一般就労されたご利用者は6名で、現在5名の方が就職した会社社に在職中でそれぞれの会社で頑張っているに従事しています。

カサプランカから一般就労された方達は、給与や休日などの条件面よりも、「自分を理解してくれる会社」「安心して働ける会社」で働きたいという希望を持っています。自分に合った仕事に就き、長く働き続けられる環境を重視している方が多いと感じています。

一般就労後の相談では、人間関係に関する内容が最も多く、「会社の人とうまく接することができない、自分を理解してくれていない?」といった悩みが多く聞かれます。また、会社側では、障害者のイメージがあり、ちょっとしたことで、どのような支援を行えばよいのか?と悩む場面があるようです。

その為、ご利用者には、何でも「報・連・相」するように、会社側には、障害者が日常のちょっとした相談や愚痴も気軽に話せる存在であってほしいと伝えていきます。ご利用者は、正解・不正解ではなく、自分の話を受け止めてくれ、返答してくれることを望んでいて、それが安心感につながると思われたいと思っています。

今後もカサプランカでは、ご利用者の希望を尊重しながら、ご利用者と会社の双方を支え、長く安心して働き続けられ支援を目指していければと思います。

(施設長)



真菜の活動について

デザインセンター真菜 藤野 舞子



真菜では、月ごとに担当を決め、行事、レクリエーション、手作り昼食・おやつ作り、外出、壁面や作品作りを計画しています。

私が担当になった時、何のレクリエーションをやるのかと考えていると、ホールで色々な曲を流している際、以前に比べて歌を口ずさんでいる方が多いなと感じました。そこで、カラオケが好きな方や十八番がある方に声を掛け、カラオケ大会を計画しました。歌う曲をご自分で決めていただき、当日まで練習していただきました。他にも、全員で歌う曲も用意し、めくり台の曲名は習字が得意な方々にお願ひしました。本番は、ドレスを持参されたり、普段あまり歌われない方もマイクを向けると上手に歌われ、初めて歌声を聴いた方もいらつしました。職員もペンライトやうちわを持つ

て参加してとても盛り上がり、終わった時は楽しい気持ちと感動が混ざっていました。

私たち職員の願ひは、ご利用者さんの「やりたい!」を叶えること、輝ける場、活躍できる場を増やすことです。最近取り組んだ活動では、絵手紙やパステルアートが得意なご利用者さんを中心に作品作りに挑戦しました。多くのご利用者さんが参加され、真菜ギャラリーにたくさんの方の作品が飾られ皆さんの意欲が向上しているように実感しています。

これからも、ご利用者さん一人ひとりが輝ける真菜にしていきたいと思っています。

また、活動の様子はインスタグラムに載せていますので、フォローもよろしく願ひします。

(介護員)



YAMABATOGAKUEN_MANA



2025(令和7)年度 社会福祉法人牧ノ原やまばと学園決算報告

2025年度も皆様のご支援やお祈りに支えられ活動を終了できましたことを心から感謝申し上げます。2026年3月末時点で、牧ノ原やまばと学園には、29の事業所(高齢者福祉関係8、障がい者福祉関係19、ほか本部及び診療所)があり、職員数は、パート職員を含め約420人、うち外国籍の方は合計14名(EPA5、特定技能6、日本人と結婚した方など3名)となっております。

さて、2025年度決算は、事業活動計算書によれば、主たる福祉活動の収益は、約21億9,807万円、支出は約21億7,933万円で、サービス活動増減差額は、約1,874万円でした(前年度は1,798万円)。「聖ルカホーム」や「デイサービスセンター真菜」、「ケアセンター花もも」の建物新築に伴う減価償却費が、約1億6,653万円あり、収支差額を圧迫しています。

当期活動増減差額は、約2,134万円。前年比で約90万円増加となりましたが、高齢者部門も、障害者部門も、資格要件などの加算をとらなければ、収益の確保が難しい状況になっています。

予期せぬ収入として、逝去された二人の女性から合計3,800万円の遺贈金が寄せられました。その用途について職員たちの願いも聞き、老朽化した車輛購入(9事業所)のため、約2,000万円を活用させて頂きました。

9月5日には、牧之原市や吉田町に、風速「75m/秒」の国内最大級の竜巻が発生。幸い、法人と施設の建物は無事でしたが、停電でエアコンが使えなくなり、「暑さ対策」には非常に苦労しました。また、職員たちの中には家屋が破損したものもあり(24名)、皆様から届けられた見舞金約72万円は、その支援や、防災備品購入などのため活用させていただきました。

詳しい内容については、各事業所にあります事業報告・決算報告書をご覧ください。

寄付金収支内訳

2025年度も多くの皆様よりご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

(単位:円)

収入内訳	一般会計	
本部取扱い分	寄付金	46,729,864
	小計	46,729,864
事業所取扱い分		2,030,073
合計		48,759,937
支出内訳		
遺贈金による車両整備(次年度購入となった1台分250万円は本部残高へ繰入)		16,420,000
竜巻被災職員への見舞金、防災備品購入		720,727
奨学金、旧施設解体等費用及び新規事業用として本部残高に繰入		29,589,137
寄付金受入れ事業所運営費用		2,030,073
合計		48,759,937

牧ノ原やまばと学園貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,299,124,925	流動負債	352,444,289
固定資産	3,239,080,508	固定負債	428,714,449
基本財産	1,920,139,094	負債の部合計	781,158,738
その他の固定資産	1,318,941,414	純資産の部	
		基本金	542,667,132
		国庫補助金等特別積立金	453,893,630
		その他の積立金	943,422,000
		次期繰越活動増減差額	1,817,063,933
		純資産の部合計	3,757,046,695
資産の部合計	4,538,205,433	負債及び純資産の部合計	4,538,205,433

※2022年度からは「機関紙やまばと」の誌代はゼロ円となりました。

助成に関して

助成金をいただき、以下のものを購入しました。感謝して報告いたします。

(単位:円)

助成団体名	事業所名	物品名	助成金
NHK 歳末たすけあい助成金 (静岡県共同募金会)	養護老人ホーム相寿園	クリスマス会経費、新年会経費	144,000

牧ノ原やまばと学園資金収支計算書

(自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)

(単位：円)

勘定科目			決算
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	798,647,761
		老人福祉事業収入	108,759,537
		就労支援事業収入	50,340,457
		障害福祉サービス等事業収入	1,177,445,390
		医療事業収入	2,523,151
		その他の事業収入	7,004,097
		経常経費寄附金収入	48,759,937
		受取利息配当金収入	2,883,153
		その他の収入	11,299,637
		事業活動収入計 (1)	2,207,663,120
	支出	人件費支出	1,451,974,029
		事業費支出	306,098,430
		事務費支出	249,218,333
		就労支援事業支出	51,598,543
		利用者負担軽減額	2,478,088
		支払利息支出	4,720,934
		その他の支出	2,932,925
		事業活動支出計 (2)	2,069,021,282
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		138,641,838
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	5,125,000
		固定資産売却収入	378,280
		施設整備等収入計 (4)	5,503,280
	支出	設備資金借入金元金償還支出	21,021,434
		固定資産取得支出	51,615,568
		固定資産除却・廃棄支出	130,680
		ファイナンス・リース債務の返済支出	6,720,160
		その他の施設整備等による支出	0
		施設整備等支出計 (5)	79,487,842
		施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	951,464,000
		その他の活動収入計 (7)	951,464,000
	支出	積立資産支出	906,056,940
		その他の活動支出計 (8)	906,056,940
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		45,407,060
予備費支出 (10)		0	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		110,064,336	
前期末支払資金残高 (12)		1,049,178,390	
当期末支払資金残高 (11)+(12)		1,159,242,726	

牧ノ原やまばと学園事業活動計算書

(自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)

(単位：円)

勘定科目			決算
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	798,647,761
		老人福祉事業収益	108,759,537
		就労支援事業収益	50,340,457
		障害福祉サービス等事業収益	1,177,445,390
		医療事業収益	2,523,151
		その他の事業収益	7,004,097
		経常経費寄附金収益	48,759,937
		その他の収益	4,592,401
		サービス活動収益計 (1)	2,198,072,731
	費用	人件費	1,456,509,746
		事業費	298,446,100
		事務費	249,535,990
		就労支援事業費用	52,094,394
		利用者負担軽減額	2,478,088
		減価償却費	166,536,858
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 46,262,941
サービス活動費用計 (2)		2,179,338,235	
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)		18,734,496	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	2,883,153
		その他のサービス活動外収益	6,707,236
	費用	サービス活動外収益計 (4)	9,590,389
		支払利息	4,720,934
		その他のサービス活動外費用	2,933,425
		サービス活動外費用計 (5)	7,654,359
		サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	1,936,030
経常増減差額 (7)=(3)+(6)		20,670,526	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	5,125,000
		施設整備等寄附金収益	0
		固定資産受贈額	310,000
		固定資産売却益	378,274
		その他の特別収益	213,498
		特別収益計 (8)	6,026,772
	費用	固定資産売却損・処分損	230,337
		国庫補助金等特別積立金取崩額 (除却等)	0
		国庫補助金等特別積立金積立額	5,125,000
		その他の特別損失	0
		特別費用計 (9)	5,355,337
特別増減差額 (10)=(8)-(9)		671,435	
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		21,341,961	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)		1,743,729,972
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)		1,765,071,933
	基本金取崩額 (14)		0
	その他の積立金取崩額 (15)		941,654,000
	その他の積立金積立額 (16)		889,662,000
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)		1,817,063,933

